

6 - 12 能登半島・宝立における全磁力変化 (1987年2月～4月)
Geomagnetic Variations recorded at the Hohryu Station (February-April, 1987)

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory
Prevention Research Institute, Kyoto University

上宝観測所ではこれまでの西天生観測点に加えて、能登半島珠洲市内に宝立^{ほうりゅう}観測点 (HRJ : $\psi = 37^{\circ}23'46''\text{N}$, $\lambda = 137^{\circ}08'38''\text{E}$) を設け1987年1月23日よりプロトン磁力計による全磁力の連続観測を開始した。

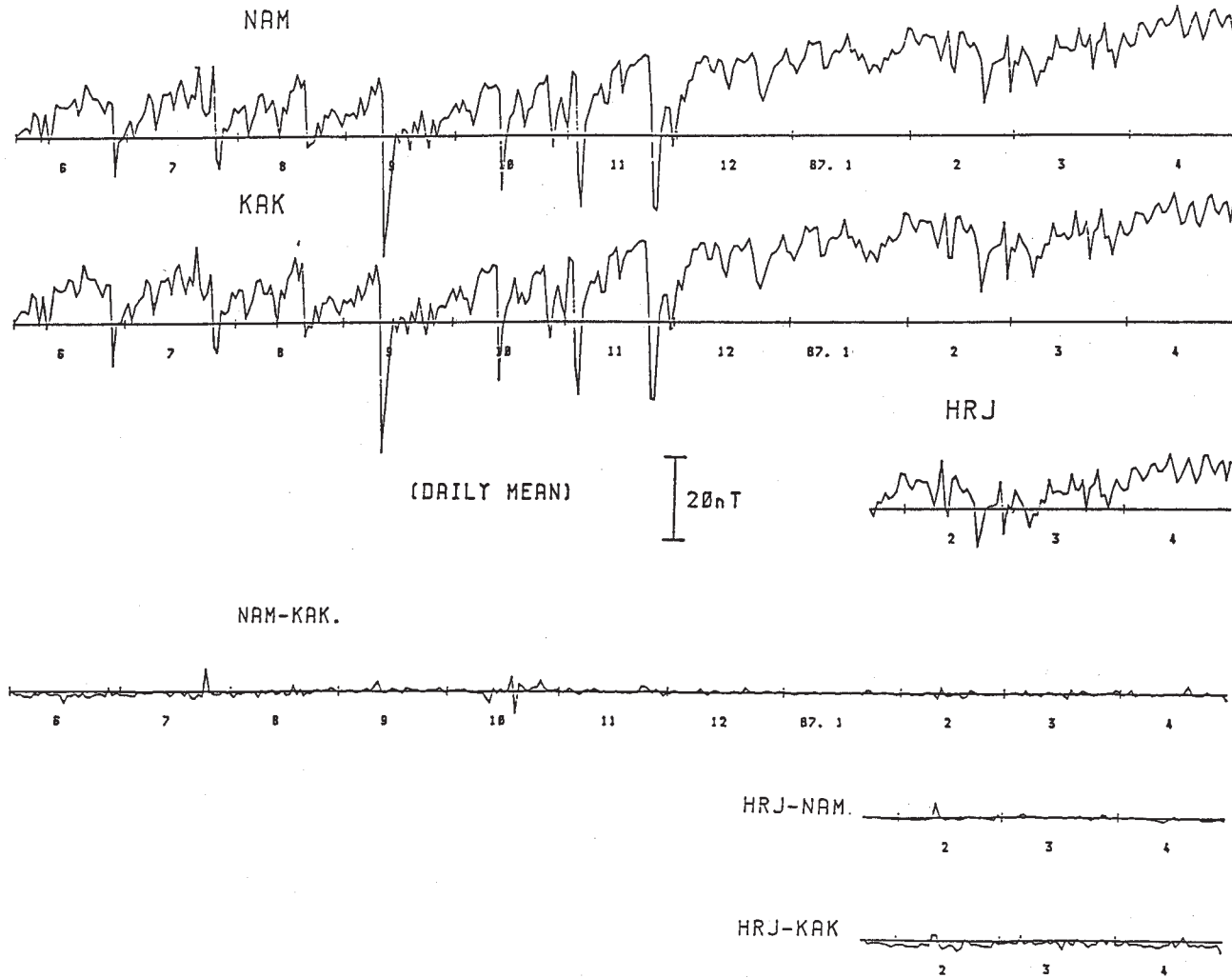
第1図に西天生 (NAM), 宝立 (HRJ), 柿岡 (KAK) の各観測点における期間中の全磁力連続記録 (毎時平均値) を示す。この図からみられるように各観測点での記録は互によく対応しているものと思われる。なお、期間中の平均値はNAM 47104nT, HRJ 47321nT, KAK 46083 nTであった。第2図は前報¹⁾に続き上段にNAM, KAKそれにHRJの全磁力変化 (日平均値) を示す。下段には柿岡を基準とした西天生, 宝立における全磁力 (日平均値) の各地点差を示す。この図から柿岡に対する西天生, 宝立における各月毎の地点差の平均値は期間中 ± 1 nT程度の範囲内であって小さな値であると思われる。

参 考 文 献

- 1) 京大防災研上宝地殻変動観測所：西天生における全磁力変化 (1985年6月～1986年5月), 連絡会報, **37** (1987), 356 - 357.

TOTAL FORCE (NAM KAK 1986.06.01 - 1987.04.29)
 (HRJ 1987.01.23 - 1987.04.29)

Fig. 2



第 2 図 上段：西天生 (NAM), 柿岡 (KAK), 宝立 (HRJ) での全磁力日平均値変化, 下段：柿岡に対する西天生, 宝立における全磁力日平均値の各地点差

Fig. 2 Upper: Variations of geomagnetic total intensities (daily mean) at three stations, Nishi-Amo, Kakioka and Hohryu.
 Lower: Differences between the geomagnetic total intensities (daily mean) at Nishi-Amo and Kakioka, and Hohryu and Kakioka.